



わた なべ てる かず  
**渡 辺 晃 一**



つし みる かい  
**津市民の会**

### 学校給食における食の安全性について問う

**問** 世間では食品の産地偽装が発生し、大きな問題になった。給食は、教育の一環として、学校と地域が連携・協働しながら、子どもたちを育てていく体制が重要であり、地産地消で顔が見える地域の商店により、安心・安全な食材を納入すべきである。教育委員会として、安心・安全な食材を調達するために、しっかりとしたガイドラインを作成すべきと考えるが、どうか。

### 国のガイドラインを参考に仕組みを整える

**答** 食材調達のガイドラインについては、教育の一環として給食を実施するための献立を地域ごとに作成し、旬の食材や地場産物、行事食を取り入れられるように、各地域で食材調達を行っている。

子どもたちに安心・安全な給食を提供するとともに、食育の観点からも、地場産物の活用など、給食を通じた地域とのつながりも大切に考えていきたい。

今後、国のガイドラインを参考に、価格だけでなく、味や品質、作業性等を考慮した総合的判断を、献立単位ごとに食材選定委員会において行えるよう、仕組みを整えていく。

### ●その他の質疑・質問●

- 津市の広大な森林を守っていくためにどうしていくのか、令和4年度予算約1億4千万円での今後の事業の進め方について
- さらなる地籍調査の推進、令和3年度追加補正予算約6,500万円と令和4年当初予算約5,100万円計上されているが、事業の進め方について
- プールの民間委託事業は
- 放課後児童クラブは など



▲学校給食における食の安全の在り方は



よし だ ひろ やす  
**吉 田 博 康**



つ みる い  
**津みらい**

### カーボンニュートラル脱炭素社会への考えは

**問** 令和3年4月に行われた地球温暖化対策推進本部・気候サミットにおいて、2050年までの二酸化炭素排出実質ゼロの実現に向けて、2030年度目標を2013年度比で26%減から引き上げ、46%減を目指すこととされた。この流れに取り残されることが重要であり、「2050年までに二酸化炭素排出実質ゼロ」宣言を行った自治体も多くあるが、津市の考えは。

### できる限り早期に宣言を行いたい

**答** 結論から言えば、2050年までの二酸化炭素排出実質ゼロの宣言をしたいと考えている。

ただ、市長1人がやりますと言っても、実態が伴わないと思うので、まずは、市民、事業者、団体、行政の各主体が、津市のエリア全体の取り組みであるという意識を共有し、その意識を各主体と共有する証として、令和4年度のできる限り早い時期に、津市として表明したい。



### ●その他の質疑・質問●

- プレミアム付デジタル商品券発行事業について
- 防災・減災対策について
  - 水防対策支援サービス委託事業の効果は
  - 津市災害時受援計画策定後の取り組みは
  - 災害廃棄物の処理について
- 令和4年度教育行政について
  - プール授業の民間活用に至った経緯と今後の展開は など



▲策定から3年が経過、万が一に備えた受援体制の確立を